

All About SAFETY

安全をいかに創造するか

「安全である」ということは、すべての業界において共通の目標といえるでしょう。「All About SAFETY」は、様々な業界や企業がどのように安全を追求しているか、その考え方や具体的な取り組みを紹介し、皆様の安全活動の参考としていただくための記事です。

今回は、二輪・四輪の完成車輸送をはじめ総合物流サービスを手がけている日本梱包運輸倉庫(株)の取り組みを紹介します。



同社小川営業所で開催された2023年度のANS運転技能競技大会

日本梱包運輸倉庫(株)の取り組み 乗務員が安全を最優先に行動できるように

安全品質を確保することは
国家、社会に貢献すること

日本梱包運輸倉庫(株)(本社:東京都中央区)はニッコンホールディングスグループの中核事業会社で、二輪・四輪の完成車輸送をはじめ総合物流サービスを手がけている。トラックやキャリアカー(四輪車を輸送するためのトレーラー)等1412台を保有し、1321名の乗務員が輸送に従事している(2023年6月末時点)。

同社常務執行役員 江原勝雅さんは社内における安全の位置づけを次のように語る。「安全は事業運営の最重要課題と認識しています。『職場の安全』『交通事故防止』『高品質なサービスの提供』をグループ全社で取り組み、従業員の安全と健康的な生活を図ることにより、お客様および社会の信頼に応えられると思っています。そのため、私たちは『一に安全、二に品質、三に効率』を常日頃から掲げています。物流業は社会インフラであり、その安全品質を確保することは『国家、社会に貢献する』ことです。これは当社の会長で、ニッコンホールディングスグループの社長である黒岩正勝の想いでもあります。」

安全運転を定着させるための
きめ細かい研修

輸送に従事する乗務員の安全運転意識を高めてもらうため、同社はきめ細かい研修体制(下表参照)を整備している。

「入社前の安全運転セミナー、入社後のA研修とB研修は40年以上前から続いています。配属先では管理者が適性診断を基に乗務員と膝を突き合せ、優位点や弱点、運転のクセなどについて話し合うなど、一人ひとりに合わせたフォローをしています。B研修の後は職場での指導だけだったので、2015年からは5年ごとに受講してもらうC研修を新たに設けました。また、定年延長により60歳以上の乗務員が増えてい

くことから、身体機能の変化を自覚してもらう機会としてS研修も追加しています」と江原さんは説明する。

これらの研修に加え、各事業所では月1回、乗務員を対象に事故防止会議を開催。全国で発生した事故事例とその原因を全乗務員に共有してもらうことで、類似事故の撲滅を図っている。さらに、国土交通省が定める乗務員に対する12の指導項目について、同社品質安全管理部が作成した映像資料を使って1ヵ月に1項目ずつ教育している。

このほか、乗務員が運転中に体験したヒヤリハットを毎月収集し、共有できるようにしているという。

全従業員の安全に関する
技術と知識の向上を図る

日本梱包運輸倉庫(株)を含むニッコンホールディングスグループは、2015年度からANS(All Nikkon Safety)運転技能競技大会を毎年開催している(2020年度は新型コロナウイルス感染症拡大により休止)。「それまで、グループ各社の乗務員が集まる機会はありませんでした。グループ全体での事故防止活動の一環として、全従業員の安全に関する技術と知識の向上を目的に開始しました」と江原さんはいう。

大会の幹事会社はグループ内の持ち回りとなっており、2023年度の第8回大会は日本梱包運輸倉庫(株)が担当。5月28日に同社小川営業所(埼玉県小川町)で開催し、グループ国内45社のうち31社136名、海外9ヵ国29社のうち4ヵ国(タイ、中国、ベトナム、インド)6社9名の合計145名が選手として出場した。トラック部門では大型車、中型車、小型車、キャリアカー、21mフルトレーラー(21mダブル連結トラック)の5つの種目ごとに競技が行われた。

「以前は各部署からの推薦で選手を派遣してい



21mフルトレーラーやセミキャリアカー、トラックによるスラローム、車庫入れなどの競技で運転技術を競った



ANS運転技能競技大会には運転だけでなく、商品の積み降ろしを競う部門もある

ましたが、現在は地区ごとで予選大会を実施し、上位者を選抜しています。予選大会を開催することにより、参加選手のすそ野が広がり、安全についてより多くの従業員に考えてもらえるようになりました。大会に参加した乗務員は参加していない者に比べ、直近3年間の加害事故発生率が17分の1と低下するなど、事故の減少に寄与しています。大会に出場することを目標にして日々の業務に励む従業員が少なくないことから、仕事に対するモチベーションアップの役割も果たしていると思います。」

輸送の効率化と乗務員の
労働環境の改善へ

輸送安全と合わせ、日本梱包運輸倉庫(株)は環境負荷の低減や輸送の効率化のための取り組みにも力を入れている。その一つが21mフルトレーラーの導入だ。

「2013年にフルトレーラーの全長が19mから21mに規制緩和されたことを受け、当社が日本で初めて21mフルトレーラーを開発しました。2014年から運行を開始し、グループ全体で123車両まで増やしています。大型10t車約

2台分の積載量があり、CO2排出量を現行大型車両比で39%も削減できる環境に配慮したトラックです。大型車約2台分を1人の乗務員で運べるため省人化につながり、大幅な輸送効率化も実現できました。特殊な車両であることから、乗務員には座学と実技の両面から特別な研修を実施しています。この研修を受講しないと、21mフルトレーラーを運転できません」と江原さんは話す。



21mフルトレーラーの乗務員には特別研修を実施

その後、さらに規制が緩和されたことから、現在は23mや25mのフルトレーラーの導入を進めている。

「当社は21mフルトレーラーの運行開始と合わせて『乗務員乗り継ぎ輸送』も取り入れました。これは、走行距離の中間地点で各乗務員がトラックを乗り換え、出発地へ戻るといったものです。長距離運行は乗務員の拘束時間が長く、出発した当日に帰宅できないなど、体力的にも精神的にも厳しい労働環境にありました。そこで、乗務員が朝出発したら10~12時間で自宅に帰れるようにしたのです。」

こうした乗務員の負荷軽減による働きやすい環境づくりも、事故防止につながる重要な取り組みといえるだろう。

●乗務員を対象にした主な研修

時期	名称	内容
入社前	安全運転セミナー	入社前の2次面接として実施。適性診断と、各々の安全に関する考え方を把握することを目的としている。
入社後・乗務前	A研修	国土交通省が定める乗務員に対する12の指導項目※に基づいた教育を行う。
入社後・5~6ヵ月	B研修	トラックを安全に運転するための技術、点検や事故防止のポイントを指導する。
入社後・5年ごと	C研修	法規の追加・変更や車両の新装備の確認を行うほか、ドライブレコーダーの映像をもとに、予測運転のポイントを学んでもらう。
60歳以上	S研修	60歳以上の乗務員(常時選任運転者)に対して実施。加齢による身体機能の変化に気づいてもらい、事故防止のポイントを指導する。

※「トラックを運転する場合の心構え」「トラックの運行の安全を確保するために遵守すべき基本事項」「トラックの構造上の特性」「貨物の正しい積載方法」「過積載の危険性」「危険物を運搬する場合に留意すべき事項」「適切な運行の経路および当該経路における道路および交通の状況」「危険の予測および回避ならびに緊急時における対応方法」「運転者の運転適性に応じた安全運転」「交通事故に関わる運転者の生理的および心理的要因およびこれらへの対処方法」「健康管理の重要性」「安全性の向上を図るための装置を備える事業用自動車の適切な運転方法」

ホンダ輸送グループ安全協議会の取り組み

ホンダ輸送グループ安全協議会はHonda製品の輸送を担う日本梱包運輸倉庫(株)、(株)ホンダロジスティクス(本社:東京都千代田区)、ホンダ運送(株)(本社:大阪府茨木市)で構成されている。3社が合同で乗務員への安全運転研修や年間無事故競争など、交通事故ゼロをめざして活動しており、昨年は3社で年間事故件数ゼロを達成した。

毎年7月には、鈴鹿サーキットで「ホンダ輸送グループ安全協議会表彰式」を開催。各社で模範となる乗務員を「優

良乗務員」として表彰している。合わせて、社員の家族(子ども)から募集した交通安全の標語やポスターの中から優秀作品も表彰。最優秀の標語は「のぼり」として3社の事業所に掲示される。



ホンダ輸送グループ安全協議会表彰式